



芳野小だより

《かしこい子 やさしい子 たくましい子》

川越市立芳野小学校
学校だより 第2号
令和7年5月1日
川越市鴨田331
電話 049-222-1264
fax 049-229-1219

「グリット」＝「やりぬく力」を高めていこう！

令和7年度がスタートして、早くも1ヶ月が過ぎようとしています。

学校では、授業や給食・清掃、クラブや委員会活動などが順調に行われています。授業では、手をまっすぐに挙げて発表をしている子や、友達や先生の話をしっかり聞いています子、真剣な目で集中して漢字や計算の問題に取り組んでいる子など、また、休み時間には読書をしたり、外遊びをしたりなど、芳野小の合言葉「心のたい」にチャレンジしている姿がたくさん見られます。

さて、今月は、運動会に向けた取組が始まります。そこで、優勝に向かって全力を出してほしい、一人一人が目標をもって取り組んでほしい、そんな思いを込めて「グリット」を高めていこうという話をしたいと思います。

「グリット」は、アメリカ・ペンシルベニア大学のアンジェラ・ダックワース先生が、成功のカギを握る力として提唱している言葉で、「GRIT」と書きます。「GRIT」は、英語の「Guts (ガッツ)」、「Resilience (レジリエンス)」、「Initiative (イニシアチブ)」、「Tenacity (テナシティ)」の頭の文字をとった言葉です。

簡単に説明すると、「Guts (ガッツ)」は、困難に立ち向かう力です。「Resilience (レジリエンス)」は、失敗から立ち直る力、「Initiative (イニシアチブ)」は、自発性、自分から進んで行動する力、そして、「Tenacity (テナシティ)」は、粘り強く最後まで取り組む力です。

グリットは、日本語で「やりぬく力」と訳されています。また、グリットは、先天的なものではなく、誰でも、いつでも身に付けたり、伸ばしたりすることができるそうです。

さて、この「GRIT」＝「やりぬく力」を伸ばすコツは、2つあります。

1つ目は、今の自分には少し難しい目標やめあてを立て、チャレンジすることです。すでにできることを何回繰り返しても、グリットは、あまり伸びないそうです。そして、チャレンジしたことは、結果はともかく、最後まで全力でやりきることが大切です。そうすることで、たとえ目標が達成できなくても、「やりぬく力」が少しずつ伸びていくそうです。

2つ目は、自分で限界を決めないということです。「もしかしたらできるかも」という前向きな気持ちでチャレンジを続けていくことです。少し高めの目標ができると、「自分にもできる」という自信が生まれます。そして、また少し高い目標を立てチャレンジ…と繰り返していくと、次第に本当に困難なことにぶつかったときも、それを乗り越えていく粘り強さにつながっていきます。

逆に、少しできないからと途中であきらめてしまったり、手を抜いてしまったりすると、グリット＝成功のカギは下がっていってしまうそうです。

子どもたちには、運動会に向けて、毎日、少し高い目標やめあてをもって、チャレンジして欲しいと思います。毎日、昨日の自分を、少しずつ超えていながら、「グリット＝やりぬく力」を高めていきましょう。
(校長 生駒 義郎)